

## 大田大臣 第2回経済財政に関する地方会議後記者会見

日 時 平成19年11月10日（土）13：00～16：00

場 所 青森国際ホテル 孔雀の間

### 1 発言要旨

本日、第2回目の経済財政に関する地方会議を開催いたしました。

北東北3県の抱える問題について、非常に率直に問題点をお聞きし、取り組んでおられるお話を聞いて、大変有意義な意見交換だったというふうに思います。

北東北3県がいずれも抱えている農業の問題、なかなか小規模農家が多くて、先の展望が開けないという問題点の上で、一方で新しい動きも起こってきている。畠山さんを始め新しい動きが起こっている。

それから、公共事業につきましても、なかなか公共事業を増やすことはできないという問題点の一方で、基盤となるインフラ整備をしっかりとしないといけない。また、それは必要となる基盤をどう選別していくのかという部分がある。

それから、中心市街地の中のまちづくりの問題ですね。これも諮問会議に先立ちまして、全国でもモデルケースになっているようなコンパクトシティを見せていただきました。苦労して25年とおっしゃいましたか、アウガができるまで、本当に粘り強くおつくりになって成功してきているわけですが、諮問会議の中では一方で郊外に広がっているショッピングセンター、その問題も提起されました。消費者ニーズで、消費者の動きとその一方で消費需要が限られているというこのマーケットを考えるという問題が出されました。

それから、2番目に若者の雇用、働き先がないという問題、青森でも青森公立大学を始め、人材育成に力を入れておられるわけですが、その育った若者がなかなか働き先がないという問題、その働き先をつくるとともに、どうして民間の経済を発展させていくのか、事業転換をどうしていくのかといったような問題が語られました。内容につきましては、皆さんもお聞きになったとおりですので、繰り返しませんけれども、こういう農業、公共事業、まちづくり、そして雇用という大きい問題について、生のご意見を聞いたことは有意義でした。今後、こういう地方会議をさらに進めていって、地方の実情に則した政策に反映できるように努めていきたいというふうに思います。

それとあわせて、今日のご意見の中にもありました地域から国への政策、地域発の政策

といいますか、地域から国への政策の流れをより大きくできないかなということをいろいろ考えていきたいと思っております。その試みの一つとして、地方のシンクタンクを対象にした政策コンペを実施したいと考えております。地方の中で地域に根ざした研究活動を行っておられるシンクタンクの方に、シンクタンクに政策を提案していただき、政策を募集いたします。地方自らのニーズに基づく地方発の地域経済建て直し策を競っていただきたいと思います。

恐らくその提案の内容としては、今日も出ておりました経済活性化の問題、まちづくりの問題、あるいは地方財政の建て直しの問題、あるいは少子化問題といったようなテーマが考えられます。全国のシンクタンクから募集しまして、ある程度事前審査した上でいくつか選抜いたしまして、東京でセミナー形式で意見交換を行って、特に優秀な提案の公表を行い、さらにその提案を磨いていただきたいと思います。

具体的には、この政策コンペはNIRA、総合研究開発機構の協力を得まして、内閣府の経済社会総合研究所の主催で実施いたします。今月中に提案の募集を行いまして、すぐれた提案については、これは6つぐらいを選びたいと思っておりますが、12月20日にセミナーを開催いたしまして、そこでご発表いただきます。NIRAの伊藤元重理事長、東大の伊藤元重先生ですね。それから、諮問会議の有識者議員始め学識経験者の方、自治体の関係の方々を交えて意見交換を行い、特に優秀な提案の選定を行いたいと考えております。もちろん私も出席いたします。セミナーで特に優秀と認められた提案については、提案をなされたシンクタンクでさらに検討を進めていただき、来年6月を目途にその成果を公表していただきます。私どもから、資金面でも可能な形での研究のお手伝いをしたいと考えています。コンペの募集要項とかセミナーの実施内容につきましては、来週にも改めて公表をさせていただきたいと思います。

こういう地方会議やシンクタンクの政策コンペを通して、地方の実情に則した政策を提案していただき、私どもも一緒に考えて、地域から国へという政策の流れをより大きな確実なものにしていきたいと考えております。

私からは以上です。

## 2 質疑応答

(問) 優秀なものについて実際に実施すると考えておりますでしょうか。

(答) 分野ですとか、政策の内容によると思います。12月20日のセミナーで政策コンペ

で正式決定したあと、さらにそれをブラッシュアップしていただいて、優れた政策といえますか、まさに実施できるような政策であれば、諮問会議でも検討したいと思えますし、あるいは霞ヶ関のそれぞれの関連する省庁で取り入れていただくことがあるかと思えます。実施すると予め決められることではありませんけれども、それに向けて、さらに詰めていただきたいと思います。そのためにも政策コンペの席上では、実現可能性ですとか、そういう点で意見交換を賜りたいと思えます。

(問) 12月20日にセミナーを行うということでしたけれども、この日に6つに絞り込むという感じでしょうか。このセミナーの位置付けというのを、もう少し具体的に教えていただけますでしょうか。

(答) はい。まず今月から来月初めてにかけて提案の募集を行います。NIRA、総合研究開発機構は全国の地方シンクタンクとネットワークを持っておりまして、全国のシンクタンクで公募いたしまして、集まった数にもよりますけれども、この日までに第一次審査で6つくらいに絞り込みたいと思っております。12月20日の政策コンペで、学識経験者始め審査していただいて、優秀なものを3つ選びたいと思っております。そして、その中から最優秀の提案を選定したいと考えております。この最優秀を含む優秀な3件については、可能な限りで資金面での私どもも参画したいと思っております。

(問) 資金面での参画というのは、政策を具体的にブラッシュアップしていくための予算を内閣府としてつけるということですね。

(答) はい。

(問) 実際に政策を実現するに当たっては、関連する省庁が予算をつけたりという可能性があるということですね。

(答) はい。それがそういう提案に仕上がっていけば、そういうことになると思えます。まずは優秀な3点について、資金面でお手伝いをして、より良い政策にさせていただくということです。

(問) 地方から国への政策の流れというのは、今回1回限りのものなのか、今後も続けていきたいというお考えなのか、その辺りを教えてください。

(答) できれば年に1回こういうものはやっていきたいと考えています。こういうものを行うことによって、地方の実情に根ざしたシンクタンクでの政策研究も進むと考えています。

(問) 地方のシンクタンクのような機関は少ないと考えますが。

(答) 色々な形のものがあるようです。全国で100以上ございます。ですから、おそらく100以上の中からいくつご提案いただけるか分かりませんが、やはり地域に根ざして研究しておられますので、かなりの数集まるのではないかと期待しています。

今回は今月募集して12月初めまでですので、期間は限られますけれども、これまで貯めてきていただいた研究をご提案いただきたいと思います。

(問) 地方の声を聞くという会議は、今回で高松に次いで2回目だったと思うんですが、2回終わってみて、地域差がすごく激しくあるというふうにお感じになったのか、あるいは2回を通じて共通して何か見えてきた地域の課題というのがございましたら、教えてください。

(答) 四国、あるいは北東北、いずれも経済が厳しい状態にあるという意味では共通していますけれども、抱えている課題がそれぞれ違うわけですね。四国は交通が不便であるという状況もあって、かなり道路への要求といったようなものが強く出されました。北東北の場合は、新幹線が青森についても通るという予定がなされておりますので、むしろ全体として雇用の厳しさ、それから農業といったような東北の特性を生かしたいんだけど、どうやって生かすのかというような問題が出されました。どちらも全く違いますが、経済が大きい転換期にある中で、どうやったら地域の経済を強くしていけるかということを実際に考えておられる意見が出たという点で共通していたと思います。むしろ四国では4県、東北では3県、それぞれの違いを私どもが一つ一つ受けとめることが大事だと思っています。

(問) 募集する政策のジャンルというのは、例えば国の財政についてとか、そういうのも色々考えられると思うのですが、それはやっぱり全体としては地域の活性化というところに絞るのでしょうか。

(答) 活性化には絞りません。地方の経済財政に関する問題ですので、国の財政ではなく、

やはりそれぞれの地域の経済財政です。

従いまして、テーマとしては地域経済活性化、産業分野の活性化ですとか、そういうジャンルが1つ考えられます。それからまちづくり、今日のコンパクトシティを始めとした、まちづくりというテーマも考えられます。また、地域の地方財政の建て直しといったテーマ、財政の問題が考えられます。それからもう1つは、少子化ですとか介護といった問題が考えられます。

そのような分野をこちらとしては想像しておりますけれども、テーマをこういう分野と区切るつもりはございません。ただ、地域の経済財政に関わるテーマという括りで募集したいと考えています。

(以上)